

家族は一番のレスキュー隊

加藤 心那

私は、六年生になって、改めて家族の大切さを感じました。私はなやみなどは自分一人でかかえこむ人だったので、家族に友達関係のなやみは一切言ったことがありませんでした。

しかし、ある日友達関係のことで、とても自分一人ではかかえきれないことがありました。

かなしくてしょうがなかったので思い切って、お母さんにその事を話しました。すると「大丈夫？ きにせられん。あしたはここなの楽しめることをやろっか！」と言ってくれました。

その答えは、救急車の出勤よりも、消防士さんの着がえよりも早く、すぐに私にかかったなやみのくさりをはずしてくれました。

そのしゅんかん、自然となみだがあふれ出て、止まらなくなりました。

家族のみんなは、私をあげましてくれて、元気づけてくれました。

ふだんはケンカばかりする弟も、やさしくしてくれて、ふだんは私がめんどろを見ている妹は、私のめんどろをたくさん見てくれて、仕事でいそがしいお父さんも休みの日は、たのしいことをたくさんしてくれました。

家族のみんなのたつた一言が私の心をあたためてくれました。私は、みんなに、

「ありがとう。」を伝えました。

たつた五文字なのに、こんなにもみんなに幸せを運んでくれる。

この世界には、たくさんあたたかい言葉があります。その、あたたかい言葉の意味を一番深く知っているのが家族です。

この世には、まだ、なやみを一人でかかえ、苦しんでいる人がいます。その人たちに、あたたかい言葉で伝えてあげませんか？ そして、苦しんでいる人は一番のレスキュー隊、家族にそうだんして、あたたかい言葉を感じてみませんか？

家族はいつでも味方です。絶対に。私は、今回のことを体験して「これからは、なやみを家族に一番に話そう。」と思うようになりました。

家族は一生の宝物です。私のほこりです。私にとつて、特別な、レスキュー隊です。

レスキュー隊は、命がけで人を守ります。人の心を愛します。一人一人を大切に思い、だれ一人の命もそまつにしません。そんなレスキュー隊が、わが家にはいます。

私にとつて、特別な。私のほこりの。

かがやかしいレスキュー隊が。